

～認知症を知り地域をつくる10カ年～

『認知症サポーター養成講座』（JA 稲羽西女性部／福寿会）



「認知症を知り地域をつくる10カ年」キャンペーンとは、認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターを、一人でも増やし、認知症になっても安心して暮らせる町づくりを市民の手で展開しようとする運動です。いま日本全国津々浦々で取り組まれています。（手首に**オレンジリング**をはめた人を見たことがございませんか？）でも、認知症サポーターとは何か特別なことをする人ではありません。まずは認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守り、他人ごととして無関心でいるのではなく「自分たちの問題である」という認識を持つことがスタートです。そして、一人一人ができることからはじめてみるだけでも世の中は大きく変わるかもしれません。町で、お店で、地域で……。認知症だと思われる方が困っているようすが見えたら「何かお手伝いすることがありますか？」と一声かけてみます。たとえ、具体的な援助はできなくても、理解者であることを示すことができます。また、ご家族には「近所に迷惑をかけているのでは」という思いがあることがあります。「大変ですね、お互いさまですから、お気づかいなく」といった一言や、ねぎらいの言葉をかけることで、家族の気持ちはぐっと楽になることもあります。各務原市地域包括支援センターつつじ苑では、稲羽地区（稲羽西・東小学校区）の皆様が『認知症サポーター養成講座』を行っています。これまでも、ライフカレッジ稲羽東の課外活動として、JA 稲羽東女性部／福寿会の皆様、稲羽東地区の皆様にお話させていただいたり、各近隣ケアグループの皆様にお話させていただいたり……。これからも、いろいろなところでお話したいと思います。興味のある方はご連絡ください。